1995年度　中等教育研究協議会　基調報告

研究部
丸　山　　豊

本日はお忙しい中、本校の研究協議会に早朝よりご参加いただきまして誠にありがとうございます。わずかな時間ですが、基調報告として本研究協議会の研究主題並びに公開授業、分科会についてご説明させていただきます。

今回の研究主題は「現代の教育課題にせまる総合人間科の試み」となっています。学校長も触れましたように「総合人間科」は本校独自の教科です。新教科の設置について文部省の研究開発学校の指定をうけ、本年度4月から実践研究を重ねて参りました。本研究協議会は、半年に満たない未熟な実践ですがこの「総合人間科」について、公開授業、分科会をとおして意見交換ができたらと思っています。

では、なぜ「総合人間科」なのか、「総合人間科」とは何かについてご説明申し上げます。実はこの教科誕生までに数年にわたる本校の学校改革の流れがあります。特色ある学校づくりの中から生まれたものです。教科として認知される以前は、特設時間として、取り組まれていました。名称は「附属の時間」です。この時期の共通テーマとして「国際理解と平和の教育」を掲げ、学校行事を核に本校の特色として様々な実践が行われてきました。前回、前々回協議会では、この観点から皆様にご検討いただきました。この時期を学校改革第一期と考えています。この時期は、教科として独立していないため全校的な取り組みに指導の格差および時間数の確保に問題を残しました。幸い、研究開発学校の指定を受けることで、正式にカリキュラムの中に位置付ける事ができました。資料の本校の教育課程をご覧ください。

各学年週一時間（一単位）全員必修とし、時間割りでは土曜日の3限～4限の連続として置きました。中学3年生は、選択履修として1時間プラスして週2時間となります。ここまでが本年度の実践です。来年度はさらに高2と高3に選択総合人間科を考えました。細部については検討中です。学習内容については、資料をご覧ください。

さて、総合人間科とは、どんな教科なのか、教科像に移ります。単刀直入にいいますと、総合的見方を育てる総合学習的課題を様々な体験と人間をとおして学ぶこと。次にその中から人間形成（いわば人生の選択につながる）をめざす、の2点です。

「現代の教育問題にせまる」という枕ことばについてご説明します。中高生にとって、総合的知識が要求される教育課題とは何が考えられるでしょうか。「何のために勉強するのか」という疑問に、生徒自身が解答を見つけ出していけるような課題は何か。また、それぞれの教科だけでは対応できない、これからの社会に必要な総合的判断を要する課題とは何か。

国際理解教育、平和教育、環境教育、開発教育、人権教育、生命・性等の内容こそが教育課題となるのではと考えています。たとえどのような生き方をしても人間は社会、自然の動きと無縁には生きられないわけですから……。これらの課題を中高の各学年テーマとして「総合人間科」で実践してみようと4月から取り組んだわけです。私自身は学校改革第2期の始まりと考えています。

次に「総合人間科」の学習方法と形態についてお話します。第1に学習方法ですが、キーワードは「体験→追求→表現」の3つです。教室を出ること、私達はこれを脱教室と名付けています。地域社会へ出て、様々な人と出会い、そして学ぶ体験を重視することです。特に大学附属ということで大学院生もふくめた大学の研究者から学んだり、多くの施設の利用も脱教室と考えています。

第2に学習形態は、養護教諭を含む全ての教師が担当し、学年のプロジェクトティームを組むことを原則としました。小人数の指導教官制度の導入です。

なぜ学ぶのかを疑問に思いながら卒業していく生徒、学校を離れて生徒、学習意欲が持てず遅れがちな生徒への切り込む糸口にならないかとも考えています。

今の生徒は表現が不得手です。利分の考えをまとめ、表現し相手に伝えるという表現力を大事にしたいと思います。評価、めざす学力観なとは各分科で話し合っていたたければ幸いです。

以上「総合人間科」についておおざっぱにご説明して参りました。本校の研究紀要第40集がお手元の袋に同封されています。85ページから108ページにわたって「新教科総合人間科の実践（第１報）としてまとめておきましたのでお読みください。今までの経緯、研究開発への応募、総合人間科の構造図、研究組織および各学年の取り組みに触れてあります。

本日の公開授業と分科会のご案内に移ります。

今回は３つの分科会を設けました。Ａ分科会は「生き方を探る」をテーマとしました。中１と高３という入り口と出口の学年にとって「生き方」とはどんな意味を持つのか。自分の人生を考える糸口のつかみ方はどうなるのかといった観点から話し合いが進むことを期待しています。

Ｂ分科会は「生命と環境」という重すぎるテーマです。中２と高１が取り上げています。このテーマを２つの学年がどのような観点から取り組んだのか、系統的な指導と生徒の問題意識の接点、そのあたりが問題となりそうです。

Ｃ分科会は中３と高２の「平和を学ぶ」です。中３の広島・大久野島と高２の沖縄への研究旅行を体験学習とした、国際理解と平和の教育から生徒の行動を報告します。特に中３では、教育学部の配慮により設置されたインターネットを生徒がどのように活用したか、高２では総合学習としての沖縄をどう学んだか等が論点になると思われます。

中・高の共通テーマの下で、総合的理解や判断にどんな違いがあるのか、またどのような広まりを見せるのかについては、私たちも半年の実践で捉えきれていません。この点は皆様方の教えを頂きたいところです。

公開授業はこのあと中１から高３まで展開されます。それぞれの分科会テーマと授業題目は関連しています。子どもの主体的活動と表現していく力が授業で発揮されるかどうか、こればかりはわかりませんがそのような観点からも分科会の中でご高評いただけると幸いです。特に高２は沖縄問題のディベートを予定しています。高校生の総合的な判断力がどういかされるかが問われるところでしょう。

なお、本日の日程の最後になりますが、名古屋大学の堀内守先生の講演を予定しています。演題は「総合とは何か」です。堀内先生のユニークな視点と、大変わかりやすく、ユーモアあふれるお話しになると思います。

最後になりましたが、今回の研究協議会は皆様方と共に勉強できる場と考えていますので、忌憚のないご意見、ご批判をよろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして基調報告とします。ありがとうございました。